

平成 31 年 2 月

平成 30 年における山岳遭難の概況



静岡県警察本部

地域部地域課

1 平成 30 年における静岡県内の山岳遭難発生状況

(1) 発生件数等

区分	発生件数 (件)	事 故 者 数						
		(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出	
					重傷	軽傷		
県下全体	123 (-5)	146 (+9)	10 (+3)	4 (+2)	17 (-8)	35 (+5)	80 (+7)	
内 訳	富士山	68 (-3)	85 (+10)	5 (+2)	2 (+2)	11 (-1)	21 (+3)	46 (+4)
	南アルプス	21 (+2)	21 (+2)	1 (±0)	2 (+2)	2 (-5)	8 (+3)	8 (+2)
	その他	34 (-4)	40 (-3)	4 (+1)	0 (-2)	4 (-2)	6 (-1)	26 (+1)

※ 括弧内は前年同期比

(2) 特徴

- 富士山での事故が発生件数・事故者数とも 5 割を超える。
- 転倒、発病（低体温症、高山病等）及び道迷いによる事故者が 7 割を超える。
- 過去 5 年間を比較すると死者数が平成 25 年と並び最多となったが、発生件数・事故者数はおおむね例年並みである。

2 山岳遭難事故の防止

山岳遭難事故の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難事故を防ぐためには、以下のような点に留意する必要があります。

(1) 登山計画の作成と万全な装備品の準備

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配意し、余裕のある安全な登山計画を立てる。

計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、雨具（レインウェア）、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万が一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備する等、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に勤める。

(2) 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

(3) 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

(4) 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

(5) 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、「道に迷った」と思ったら、闇雲に進むことなく、今来た道をたどり、正規の登山道に引き返すなど、状況を的確に判断すると共に、早めに登山を中止するよう努める。

(6) 開山期における富士登山の注意事項

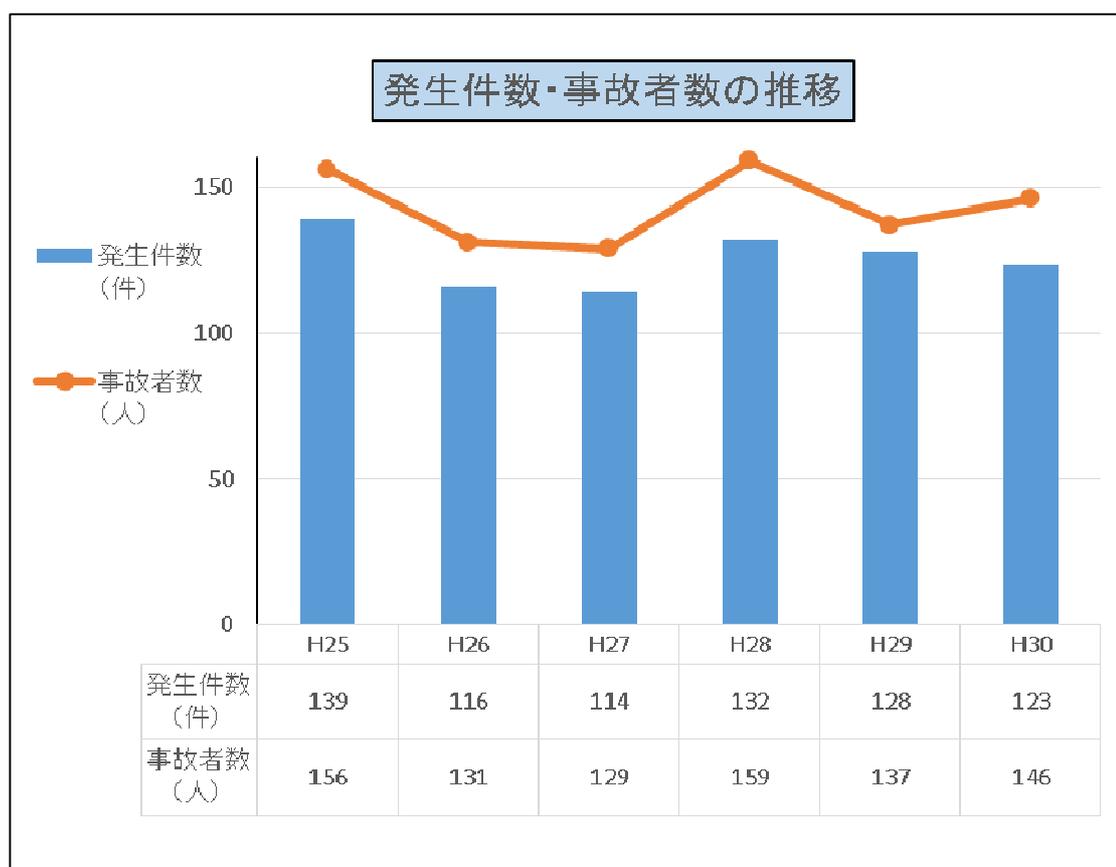
標高の高い富士山は平地との気温差が大きく、夏期においても山頂付近で低体温症となり救助される者が多発することから、十分な防寒対策が必要となる。(標高が100メートル高くなるごとに気温は0.6度低下するため、海拔0メートルの平地より富士山山頂の気温は約23度低い)

また、富士山では高山病等のおそれがあるため、万全の体調(寝不足、風邪気味を避ける)で登山に臨み、ゆっくりした一定のペースで歩くとともに積極的に水分を取るなど、発病への予防対策も必要となる。

3 平成 30 年における静岡県内の山岳遭難発生状況

(1) 過去 5 年の発生状況

区分	発生件数 (件)	事故者数 (人)	事故者数				
			死亡	行方 不明	負傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
平成 25 年	139	156	10	3	19	35	89
平成 26 年	116	131	8	1	19	22	81
平成 27 年	114	129	8	3	21	27	70
平成 28 年	132	159	6		21	35	97
平成 29 年	128	137	7	2	25	30	73
平成 30 年	123	146	10	4	17	35	80



(2) 山系別発生状況

区分	発生件数 (件)	(人)	事故者数					
			死亡	行方 不明	負傷		無事 救出	
					重傷	軽傷		
合計	123	146	10	4	17	35	80	
前年比	-5	+9	+3	+2	-8	+5	+7	
富士山	富士宮口	34	40	2		8	7	23
	須走口	11	13			1	5	7
	御殿場口	15	22	2	2	2	7	9
	富士山・その他	8	10	1			2	7
	小計	68	85	5	2	11	21	46
	前年比	-3	+10	+2	+2	-1	+3	+4
南アルプス	聖岳	4	4	1	1		1	1
	赤石岳	6	6		1	1	2	2
	荒川岳	3	3				1	2
	南ア・その他	8	8			1	4	3
	小計	21	21	1	2	2	8	8
	前年比	+2	+2	±0	+2	-5	+3	+2
その他	安倍山系	5	6	2			2	2
	天城山系	10	13				1	12
	愛鷹山系	3	3					3
	天子山系	4	5			1	2	2
	北遠山系	1	1					1
	その他	11	12	2		3	1	6
	小計	34	40	4	0	4	6	26
前年比	-4	-3	+1	-2	-2	-1	+1	

※ 富士山・その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所をいう。

(3) 目的別発生状況

区分	発生件数 (件)	(人)	事故者数				
			死亡	行方 不明	負傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
合計	123	146	10	4	17	35	80
登山	56	62	6	3	5	15	33
観光	56	71	2	1	9	20	39
ハイキング	4	4					4
ロッククライミング	3	3			3		
業務	3	4	2				2
山菜(野草)採り	1	2					2

(4) 態様別発生状況

区分	発生 件数 (件)	(人)	事 故 者 数				
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
合 計	123	146	10	4	17	35	80
転 倒	33	33			10	23	
発 病	27	41	3			3	35
道 迷 い	26	33					33
滑 落	14	15	5		3	7	
疲 労	12	12				2	10
転 落	4	4	1		3		
不 明	5	5	1	4			
そ の 他	2	3			1		2

(5) 年代別発生状況

区分	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
				重傷	軽傷	
合 計	146	10	4	17	35	80
20 歳 未 満	13			1	3	9
20 ～ 29	20		1		4	15
30 ～ 39	20	1		2	8	9
40 ～ 49	19	3		4	4	8
50 ～ 59	19	2		1	3	13
60 ～ 69	25		2	5	9	9
70 ～ 79	25	4	1	3	3	14
80 歳 以 上	5			1	1	3

(6) 居住地別発生状況

区分	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	146	10	4	17	35	80
静岡県	31	4		4	6	17
県 外	95	5	4	13	23	50
外国人	20	1			6	13

(7) パーティー別

区分	発生 件数 (件)	(人)	事 故 者 数				
			死亡	行方不明	負 傷		無事救出
					重傷	軽傷	
合 計	123	146	10	4	17	35	80
単 独	45	45	5	4	5	6	25
2 人	34	43	2		3	11	27
3 人	12	14	2		3	6	3
4～9人	25	36	1		4	9	22
10人以上	7	8			2	3	3